

マーケティング 生徒が成果発表

浜松大平台高

浜松市西区の浜松大平台高校で、マーケティングを学ぶ三年生が複数企業の経営戦略を調べる授業の成果発表会に臨んだ。授業に協力した企業の社員を前に学習の成果を披露した。

「マーケティング」の授業を選択する十一人は、昨年五月から学校周辺の自動車販売店や菓子製造販売店などを訪問し、各企業の経



学習の成果を発表する生徒
浜松市西区の浜松大平台高で

営戦略を調べた。発表会にはパン・菓子製造のヤタロ（浜松市東区）の社員が参加。高校生が感じた企業の魅力や発見した経営の工夫などに耳を傾けた。

同社が展開するパウムクーヘンの「治一郎」ブランドを調べた生徒は、同店が話題性や希少性をPRするため、季節限定商品を多く開発していることに着目。

「治一郎」掛川店の河村澄江店長は「素晴らしい。私たちがのことをしっかり勉強してくれたことが伝わった」と高く評価した。

発表を終えた堀田沙耶さん（こ）は「お客さんのことを第一に考えていることが分かった」と企業の取り組みを振り返った。

同校では同日、進学を希望する一、二年が県立大の岩崎邦彦教授からマーケティングの基礎を学ぶ講演会もあった。（小林颯平）

2023年（令和5年）2月1日（水）中日新聞